

やまぐちっ子の学力向上に向けて

平成27年1月

やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会

平成26年度の全国学力・学習状況調査では、小・中学校ともに、国語、算数・数学の全ての区分において、平均正答率が全国平均を上回り、これまでの取組の一定の成果が見られました。

しかし、全国調査の結果からは、

- 条件に沿って記述したり、根拠を明確にして説明したりするなど、知識・技能を活用する力
- 算数の「割合」や数学の「図形」等、特定の内容に関する知識や技能の定着
- 学習習慣の確立や家庭学習の充実など学習意欲の一層の向上

といった「継続した課題」が明らかとなっています。

そこで、「やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会」では、学校における取組や教育委員会の施策、これまでの全国学力・学習状況調査や「学力定着状況確認問題」の結果等を踏まえ、今後の取組の一層の充実に向けた提案をまとめました。

今後の取組の一層の充実に向けて【提案】

(1) 学校の組織的な取組（学校の力を伸ばす）

- ① 全国学力・学習状況調査と県学力定着状況確認問題の結果の共有と活用による、年間2回の検証改善サイクルの確実な定着を図る。
- ② 学級や学年、教科の枠を越えた全教職員による組織的な指導体制づくりの一層の推進を図る。

(2) 指導方法の工夫改善（授業の力を高める）

- ③ 授業における「課題の提示」「話し合い活動」「振り返り」の確実な実施を図るとともに、授業評価による授業改善を促進する。
- ④ 「授業づくり拠点校」等における研修会を充実し、質の高い授業に触れることを通じて指導力の向上を図る。
- ⑤ 学力向上推進リーダー・学力向上推進教員を効果的に活用し、学習課題や発問、板書計画等、授業づくりに関する研修の充実を図るとともに、日々の授業実践や授業研究を通じた研修の日常化を促進する。

(3) 学習環境の整備（学習環境を整える）

- ⑥ 全校共通の学習のルールや学びを促す教室環境の充実に向け、指導資料「通常の学級における特別支援教育の充実のために」等を活用するなど、学習環境整備に向けた取組の推進を図る。
- ⑦ 小中連携による相互乗り入れ授業や小学校における授業交換による教科担任制を推進し、児童生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導体制の一層の充実を図る。

(4) 学習習慣の確立（学習習慣を身に付ける）

- ⑧ 自主学習や家庭学習の充実に向け、「やまぐち学習支援プログラム」の活用を図るなど、児童生徒一人ひとりの学力の状況に応じた取組を促進する。
- ⑨ 「学力分析支援ツール」を活用した児童生徒・保護者への適切な情報提供により、学校と家庭が一体となって学力向上を推進する。

☆ 家庭・地域との連携・協働（すべての取組の基盤として）

- ⑩ コミュニティ・スクールや「地域協育ネット」を積極的に活用するとともに、県民総がかりによる学力向上に向けた気運の醸成を図る。

本提案をもとに、各市町教育委員会及びやまぐち総合教育支援センターとの連携強化を進め、4つの重点取組事項にそって、学校・家庭・地域が一体となった「オールやまぐち」による学力向上の取組が一層推進されることを期待します。